

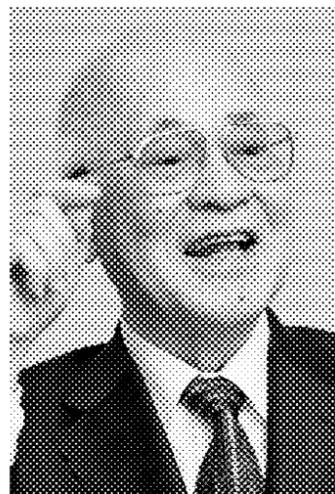
# 省エネの切り札 送風機

脱炭素社会の実現や電力需給逼迫で、省エネルギーに向けた取り組みが問われている。産業界で広く使われる送風機も重要な機器の一つ。製鉄所をはじめ、基幹産業向けの高付加価値な送風機製造・販売に特化し、半世紀にわたり実績を積み重ねてきた日本機械技術（東京都中央区）の西藤彰会長に、エネルギー危機を乗り切る術を聞いた。

「生産現場で目立たない消費電力を抑えない送風機ながら、省エネの切り札として期待されています。」

「鉄鋼、セメント、紙・パルプといった基幹産業を中心に送風機は欠かさない存在。だが、製鉄所を例にとると使う全電力の約6割を消費する。2022年9月期の決りも事実。性能はそのまま算はこれまででない好

## 日本機械技術会長 西藤 彰氏



業績だった」とはいえ、エンドユーザーにとつて生産設備に組み込んだ送風機の更新に踏み切るの

「20-30年使われている例が少なくない。現場を個別調査した上でオーダーメイドの送風機を提案している。初期費用の額に躊躇する声もありましたが、長期間使う送風機だからこそ、維持費を改善できる効果はかなりの大きい。長い目で検討してもらいたい」

「会社設立は1973年。当時も現在と同様にエネルギー危機に直面していました。」

「第1次オイルショックの真つただ中。高効率で独創的な製品を追求する旧西ドイツの複数企業を視察し、日

# 消費電力10 — 30%削減

重ね、他社の追随を許さない高付加価値のオリジナル送風機を開発してきた。現在のエネルギー問題も、当社製品が解決に貢献することを考えている。技術開発に終わりはない。挑戦を続ける」

### 記者の目

次  
の  
50  
年  
見  
据  
え  
手  
綱  
緩  
め  
ず

一見、鉄の塊ながらその中には流体工学や空気機械工学が詰まっています。深い送風機。日本機械技術は技術力を強みに結果を出してきた。それでもまだ未知な部分があり、「難度が高い分野だからこそ深掘りすると付加価値が高まる」と西藤会長は開発の手綱を緩めない。省エネ需要を「追い風」に次の50年を見据えている。

(伊藤快)